

アイツだけ、  
ずるい!  
～公平性～





「うーん、うーん…」

アイくんが、うなされています。

「うわあ、アイくん すごく くるし

そういったのは、ピンクのぬいぐるみ

メツチャカ。

「こりゃあ ずいぶん なやみが

しんこくそうだあ」

こちらは、しろいほうの ぬいぐるみ

シツチャカ。

へんな ぬいぐるみたちは、

かおを みあわせると

「もう おこしてあげようか？」

「うん、アイくん、アイくーん」

と、アイくんを ゆすりました。

アイくんは、くるしそうに もういち

「ううう…」

と うなったかとおもうと。

シツチャカ

メツチャカ

メッチャかが ききました。  
「でも タブレットをつかう ユウくんは、  
せんせい なんにも いわないんだよね。  
ズルしてたら、せんせいが ちゅういするんじゃない？」  
「それは わかんないけど……。  
だから へんなでんわ つかって ユウくんは きいてみたい！」  
「ココロのでんわも しってるんだ！」  
と メッチャカ。  
シッチャカは、  
「いちおう いわせてね。  
『ココロの電話〜』  
あかい、でんわが でてくると、  
「これかあ」  
と アイくんは きょうみしんしんです。



## Talking...

「だから タブレットの よみあげきのうを  
つかって もんだいぶんを  
よんでもらってるんだ。こんなかんじ」



「へえ…」

しかくに  
あてはまる  
かずを  
かきましよう

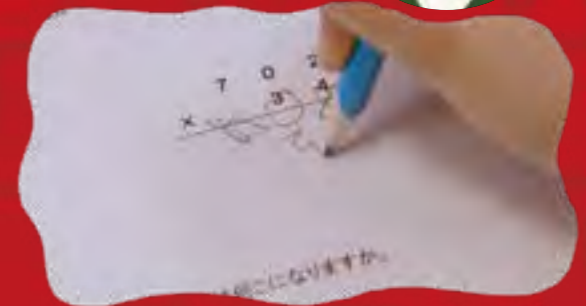


「けど、みんながよむより じかんが かかるから  
しけんのじかんを 10 ぶん のばしてもらってで…  
それにね、こたえるときも、タブレットを  
つかわないと とても たいへんなんだ」



「どういうこと？」

「だって じぶんで かこうとすると  
こんなふうになっちゃうからさ」



「なるほど～」



「いろんな りゆうが あったんだね」



「タブレットを つかって  
しらべたり けいさんしてるんじゃないんだよ。  
ズルしてないって、わかってほしいな」



ジローはかせは、ききました。

「アイくんは、ユウくんを まだズルいとおもっているようじゃねえ」

「うん」

「そのりゆうは なんだろう？」

「えっと……こうへいじゃないきがするから？」

「ほう、こうへい？」

「うん、ユウくんが ひとりだけ ちがうことを してるでしょ」

「じゃあ、このじょうきょうは ズルいとおもうかな？ ホイ」



「ん？ これって??？」

「クラスメートのなかで アイくんがひとりだけメガネをかけているじょうきょうじゃ。これって ズルい？」

「いや ぜんぜん。

だって メガネとったら、こくばんみえないもん。しかたないよ」

シツチャカとメツチャカも

「うんうん」

と うなづきます。

